

りがとう

に会

にたえる



にえた

たが、悔しくて負けを受け入れられなかった。でも周りの

一が県内最強を思っている。田中大樹選手(同)は「チームが一つになるのを感した。野球を続けてきて良かった」と思いを語った。

北 秋 田

同ネットワークは13年に発足。北東北3県の知

事合意に基づき広域交流圏の形成を図る「北東北

仁地区を会場に選んだ。



行政職員らが議論した北東北めぐみネットワーク(北秋田市阿仁町当で)

地域連携推進会議」が前身。県境を越えて住民が交流、連携を深め、地域を活性化させるのが狙い。各地の温泉などで定例会を開き、街づくりや農山村の可能性などをテーマに話し合っている。会員は130人。

今回はさまざまな貴重な文化遺産や自然資源のある北秋田市で開かれた。沿線人口の減少に伴う乗客減で赤字経営に悩む秋田内陸線を心算する

が北東北には面白い種がたくさんある。種を見つけ見て、味付けし、形にして魅せようと呼び掛

秋田、青森、岩手の県職員ら約50人が出席。秋田内陸活性化本部の豊山智憲さんがおもむきを形にする。内陸線に元気になる。地域・行政ぐるみの活性化運動」と題して活動報告した。

市内の保育園に勤務す

神奈川県相模原市を拠点に活動しているアマチュア人形劇団ぶらんこ(今田秀子代表)のホラシア公演が25日、北秋田市市川農村環境改善センターで開かれ、市内の園児たちが手作りの人形劇を楽しんだ。



人形劇団ぶらんこの出前公演を楽しんだ

活性化策行政ぐるみで

北東北3県 打当温泉会場に定例会めぐみネット

北東北3県の行政職員らでつくる「北東北めぐみネットワーク」(西堀清和会長)の第17回定例会は25日、北秋田市阿仁町当の打当温泉で開かれ、秋田内陸線沿線地域や行政ぐるみで行う活性化策について考えた。

けた。続く講話は、佐藤光子北秋田市議が「意識改革」33歳女性議員の決意」と題して話した。内陸線に関して「無くなるのは残念だが若い世代の多くも残した方がいいと考

目的で内陸線を利用する際のキーワードは「癒やし」「ガム」とした。若い世代に関しては「意識が低く元気がない。まずは今住む街がどんな状況かを把握し、自分で何が出来るか考えしてほしい。その意識改革の後押

しをしたい」とした。最後に秋田内陸縦貫鉄道の若杉清一社長が「秋田内陸線再生に向けて」と題して講話した。懇親会では各地の地酒やさまざまな料理に舌鼓を打ちながら議論を続けた。

いたのが縁で毎年、劇団メンバーがホラシア公演に訪れている。10年目の節目となる今年は団員5人が「出張し、柴森さんを加えたメンバーも、エプロンシアターや人形劇、パネルシアター、ボートなど多彩な演目を披露した。

ステージで使われた人形は、すべて団員たちの手作り。会場地域の園児60人衆が集まり、趣向を凝らしたステージの数々に手拍子を打った

り、一緒に歌を口ずさみながら楽しい時間を過ごしていた。ぶらんこは、26日午前9時30分から米内沢保育園でホラシア公演を予定している。

川 人形劇を“出前公演” 合 神奈川の園児ら楽しい休日

保育士の柴森トシマさんがつて劇団に所属し

ぶらんこは、26日午前9時30分から米内沢保育園でホラシア公演を予定している。

のが25日、村生選挙習